

2017-B		VI43B			
拠出金・基金 の名称		国際農業研究協議グループ拠出金／国際とうもろこし・小麦改良センター(CIMMYT)			
種 別		☒ イヤマークのみ ☐ 一部イヤマーク			
【拠出先の国際機関名】 国際農業研究協議グループ(CGIAR)／国際とうもろこし・小麦改良センター(CIMMYT)					
【所管官庁担当局課・室名】 農林水産省大臣官房国際部海外投資・協力グループ／農林水産技術会議事務局国際研究官室					
【当該任意拠出金の目的・用途等】 途上国農家が実施可能で、農業生産環境の変化に適応した持続的な農業栽培技術を開発するための研究開発を支援する。					
【最近3年間の我が国支払額及びODA率】					
単 位	邦 貨 (千 円)	外貨1 (千米ドル)	外貨2 (千)	レ ー ト	ODA率(%)
平成29年度	16,096	146	-	1米ドル=110円	100
平成28年度	19,511	163	-	1米ドル=120円	100
平成27年度	21,580	196	-	1米ドル=110円	100
【当該任意拠出金等の意義、成果等に関する我が国としての評価】 CIMMYTはCGIARに属する研究機関であり、世界の食料安全保障を確保し、貧困を削減するため、トウモロコシ及びコムギの生産性を持続的に向上させることを目的としている。 近年、開発途上国において、窒素肥料の過剰な投入により、地下水汚染や温室効果ガスの排出が懸念されている。一方、後発開発途上国の多くでは、肥料の国際価格の高騰等により、未だ十分な施肥が困難な状況である。このため、窒素肥料の利用効率を高めることによる低環境負荷かつ低コストな農業技術の開発が求められている。 このような課題に対応するため、我が国のCIMMYTへの拠出金により、コムギ遠縁野生種が持つ生物的硝化抑制能を栽培コムギへ育種的に導入した系統を作出するための研究開発を行い、窒素施肥量の削減に資するコムギ品種の開発を実施しており、その意義は大きい。					
【備考】					